

(様式第2号)(第14条関係)

太陽光発電施設設置許可申請書

令和 7 年 6 月 30 日

長野県知事 様

住 所 長野県東御市県281番地2
氏 名 株式会社エコパワーとうみ
代表取締役 田丸 基廣
〔法人にあつては、主たる事務所の
所在地、名称及び代表者の氏名〕

長野県地域と調和した太陽光発電事業の推進に関する条例第14条第1項の規定により、下記のとおりに申請します。

記

太陽光発電施設の設置の場所		東御市下之城979-10・979-12・985-1・985-9・986-2・990-2・990-4・990-5・990-13・993-1・993-2・993-5・993-6・993-7・993-8・993-13・994-1の各一部、990-3全体
事業区域の位置及び面積		8,934.7㎡
太陽光発電施設の合計出力		① (北御牧グラウンド北西側) 150.00kW ② (北御牧グラウンド南東側) 500.00kW (太陽電池の合計出力 ①189.54 kW ②526.50kW)
太陽光 発電事 業の内 内容及び 実施予 定期間	発電電力の用途	■売電 □自家消費 設備ID(オフサイトPPA方式による東御市内の公共施設への供給)
	設置工事着手予定日	令和 7 年 8 月 1 日
	設置工事完了予定日	令和 7 年 10 月 30 日
	運転開始予定日	令和 7 年 11 月 1 日
	施設撤去予定日	令和 27 年 10 月 30 日
太陽光発電施設の設置に関する計画		別添「太陽光発電施設設置計画書」参照
太陽光発電施設の構造に関する事項		公有地に太陽光パネル、パワーコンディショナ(PCS)、キュービクルを設置し、電力系統に売電する。 太陽光パネルは杭による野立て架台で地上設置する。太陽光発電設備等の基礎・架台に関する工業規格(JIS7C8955:2017)に定められている荷重(風圧、積雪、地震等)に耐えうる構造である強度計算を行った。
景観保全のための措置の検討に関する事項		【参考様式】景観の保全のための措置の検討状況書のとおりに
環境の保全のための措置の検討に関する事項 (※環境配慮区域に太陽光発電施設を設置する場合に限る。)		【参考様式】環境の保全のための措置の検討状況書
備考		連絡先 株式会社エコパワーとうみ 事業推進部 事業推進課 (電話番号) 0268-64-5896 (FAX番号) 0268-63-6908 (電子メールアドレス) seikan@city.tomi.nagano.jp

注1 該当する□内に△印を記入すること。

- 2 「太陽光発電施設の設置の場所」欄は、提出に係る太陽光発電施設の事業区域が所在する土地の地番全て記載すること。
- 3 「事業区域の面積」欄には、小数第1位まで記載すること。
- 4 「太陽光発電施設の合計出力」欄は、小数第1位まで記載すること。
- 5 「発電出力の用途」欄は、再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（平成23年法律第108号）第9条第1項の規定による申請手続中の場合は、その旨を記載すること。
- 6 「備考」欄は、電話番号、FAX、電子メールアドレス等の連絡先を記載すること。

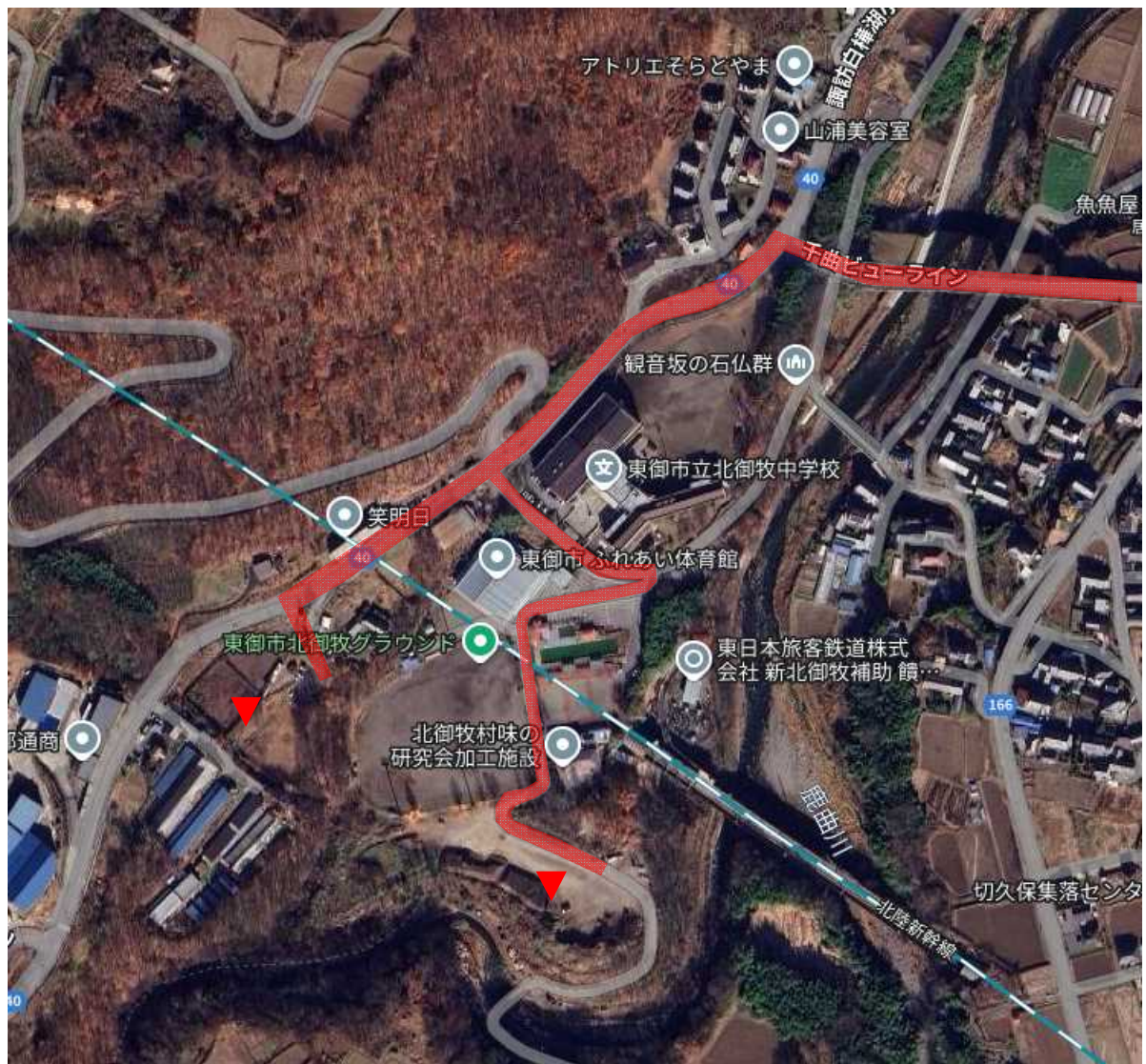
- （添付書類）
- 1 位置図
 - 2 事業区域図
 - 3 登記事項証明書（申請者が法人である場合に限る。）
 - 4 誓約書
 - 5 太陽光発電施設の配置図
 - 6 土地の形質変更を行う場合にあっては、当該土地の造形計画の平面図、縦断面図及び横断面図
 - 7 擁壁を設置する場合にあっては、当該擁壁の構造図
 - 8 排水計画に係る平面図及び断面図
 - 9 太陽光発電施設の構造に関する図面
 - 10 現況写真
 - 11 条例第11条の書面
 - 12 その他知事が必要と認める書類

(参考様式) (第9条関係)

太陽光発電施設設置計画書

防災対策等設置施設	☐ 調整池 ☐ 沈砂池 ☐ 排水設備 ☐ 擁壁 ☐ 管理用道路 ☒ その他（雨水浸透側溝）		
特定区域の該当 ※該当するものは事業区域図 に明示すること	☒ 地域森林計画対象民有林 ☐ 地すべり防止区域 ☐ 急傾斜地崩壊危険区域 ☐ 土砂災害特別警戒区域 ☐ 砂防指定地 ☐ 該当なし		
環境配慮区域の該当 ※50 キロワット以上の事業 に限る ※該当するものは事業区域図 に明示すること	☒ 国有林・地域森林計画対象民有林 ☐ 国立公園・国定公園・長野県立自然公園 ☐ 長野県自然環境保全地域 ☐ 郷土環境保全地域 ☐ 水道水源保全地区 ☐ 水資源保全地域 ☐ 希少野生動植物の生息地等保護区 ☐ 鳥獣保護区 ☐ 該当なし		
工程表	別添工程表のとおり		
工事車両の運行計画	想定される台数（延べ） 架台搬入 3 台（10t 車） パネル搬入 3 台（10t 車） キュービクル搬入 2 台 キュービクル基礎用生コン車 4 台 重機搬入用 4 台 運行時間 原則午前 8 時 30 分～午後 5 時 30 分 経 路 別添経路図のとおり		
造成工事	盛土の有無	有 ・ ☒ 無	想定盛土量 — m ³
	切土の有無	有 ・ ☒ 無	想定切土量 — m ³
	事業区域外からの搬入量		— m ³
	事業区域からの搬入量		— m ³
排水処理設備の有無	☒ 有 ・ 無		
	排出経路	事業区域内浸透	
送電設備	☐ 鉄塔 ☒ 電柱 ☒ 地下埋設		

株式会社アドバンテック		長野県東御市下之城	
現場名	【東御 2025】東御市993 重点		
現場住所			
月	2025/08		2025/09
日	1	2	3
曜	4	5	6
	7	8	9
	10	11	12
	13	14	15
	16	17	18
	19	20	21
	22	23	24
	25	26	27
	28	29	30
	31	1	2
	3	4	5
	6	7	8
	9	10	11
	12	13	14
	15	16	17
	18	19	20
	21	22	23
	24	25	26
	27	28	29
	30	31	1
	2	3	4
	5	6	7
	8	9	10
	11	12	13
	14	15	16
	17	18	19
	20	21	22
	23	24	25
	26	27	28
	29	30	31
現地調査			
工事発注			
原価集計			
消防申請			
電力申請 接続検討			
電力申請 系統選系			
提出			
施工計画書提出			
工事説明			
支給品手配			
工事			
POS設定			
竣工検査			
使用前自己確認			
完了実績報告			
試運転			
系統選系			
保安契約			
PPA契約			
サービス開始			
注意事項			



(参考様式) (第7条関係)

景観の保全のための措置の検討状況書

項 目		検 討 事 項	配慮する内容
太陽電池 モジュール	全体	(1) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避ける。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないよう、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめる。	窪地の斜面平場や底面に太陽光設備を設置しますが周囲から見通しにくい場所に設置するため問題ないと判断します。
		(2) 公共的な眺望点からの景観への影響に特に留意し、完成予想図の作成（シミュレーション）等を実施する。 ※検討で作成した完成予想図は添付すること	(※設備配置図に航空写真を貼り付けたものを添付いたします。)
	配置	(1) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させる。	下之城979の方は県道40号に隣接しますが、路面から4.0m程度下の平面距離で10m程度離れた場所に設置します。併せて、南西方向に一軒民家がありますが、私道を挟んで平面距離で16.5m程度離れているため、問題ないと判断します。
		(2) 施設の規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が連続することを避ける。	2カ所に別けて太陽光発電設備を設置しますが、システム容量が150kWと500kWと小さく、一般的に大規模と言われる1000kWより小さいため、大規模な平滑面が連続する事はありません。併せて、元々の安定した地盤を崩す事はありませんので問題ないと判断します。
	規模	(1) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さは極力抑える。	太陽光発電設備は一般的なものを採用しています。最高高は構内柱のGL+12m程度になりますが、施設に1本だけ設置し、径もφ350mm程度と細いため、視線を遮る影響は少ないと判断しています。

	形態・意匠	(2) 主要な道路や公共的な眺望点から見える場合は、太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑える。		一部が県道40号から見えますが、設置架台数は全体の12%程度と極力抑えた配置としています。
		(1) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせる。		当該地に応じた架台を選定しており、適切な高さで傾斜になっております。太陽電池モジュールの向きは全て真南を向いておりますので、規則性を持った配置であると判断しています。
		(2) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周囲の山並み、建築物の屋根等と極力整合させる。		太陽電池モジュールの傾斜角は15度としており、周囲の山並みとの整合をとっています。
		(3) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路等から見えにくくする。		太陽光発電設備の周囲をフェンスで囲うため、周辺道路からは多少見えにくい状況になります。
太陽電池モジュール	材料・色彩等	(1) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行う。また、素材の結晶が目立たないものを選択する。		低反射のためにARコート処理を行っています。
		(2) 黒又は濃紺を基本とし、低明度かつ低彩度の目立たないものとする。		内容に配慮しています。 (7PB 3/0.2)
		フレーム	(1) 低反射の素材を用いる。	一般的なアルミフレームを使用しており、過度な反射はありません。
			(2) 太陽電池モジュールと同系色を用いる。	同系色を用いています。 (N2)
附帯施設・附属施設	(1) フェンス等については、色彩、形態・意匠に配慮する。		派手な色は使用せず、一般的な白のメッシュフェンスを使用します。	
	(2) 電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努める。		電柱については1本のみで、必要最低限にとどめております。	
	(3) 架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の付属設備については、色彩等に配慮する。		付属設備の配管等は黒を使用します。	

敷地の緑化	(1) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。	植栽は行いません。
	(2) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。	植樹は行いません。
その他	(1) 施設の規模が大きく主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討する。	低反射モジュールを使用いたします。
	(2) 施設及び敷地内は、定期的に保守点検を行うなど、適切に維持管理を行い、景観の保守に努める。	年次点検を行います。
	(3) 事業区域場所の景観行政団体の定める景観育成基準への適合を確認する。	長野県景観条例に基づき示されている、太陽光発電設備の「設置にあたっての配慮事項」を遵守します。

上記以外でも、設置箇所周辺の土地利用状況、周辺景観の状況に応じて、より効果的な配慮方法を工夫してください。

システム定格容量	150.00kW
太陽電池モジュール総容量	189.54kW (324枚)
モジュール定格出力	585W (LONGI : LR5-72HGD-585M)
レイ構成	
PV用	18直列×6並列×3
太陽電池架台種類	野立て架台(パネル角度15度)
特記事項	

PCS名	ストリング	枚数	モジュール 定格容量	PCS 定格容量	架台
PCS①	18直列×6並列	108	63.18kW	50.00kW	パネル架台 に取付け
PCS②	18直列×6並列	108	63.18kW	50.00kW	
PCS③	18直列×6並列	108	63.18kW	50.00kW	
合計		324	189.54kW	150.0kW	



受変電設備へ

改訂履歴	05		
	04		
	03		
	02	地番993整地後再配置(パネル間2500→2200)	2025/6/9
	01	太陽光パネル変更	2025/5/22



株式会社アドバンテック

図面番号					改訂	プロジェクト名	プロジェクトNo.		
A3-920C014-AD					02	東御市下之城発電所	tom24-6		
設計	検図	調達	承認	作成日		図面名称		縮尺	ページ
金並	加藤	星川	河野	2024年11月29日		設備配置図		1:750	2/2

砕石浸透試験L=123.95m
(95.30m+28.65m)
現地透水試験結果により延長変更の可能性有り

フェンス H=1.5m
延長 333.35m≒350m
両開きゲート W=4000

太陽光モジュール
マンセル値 7.5PB 3.0 3.0

200m等高線

22-1

560

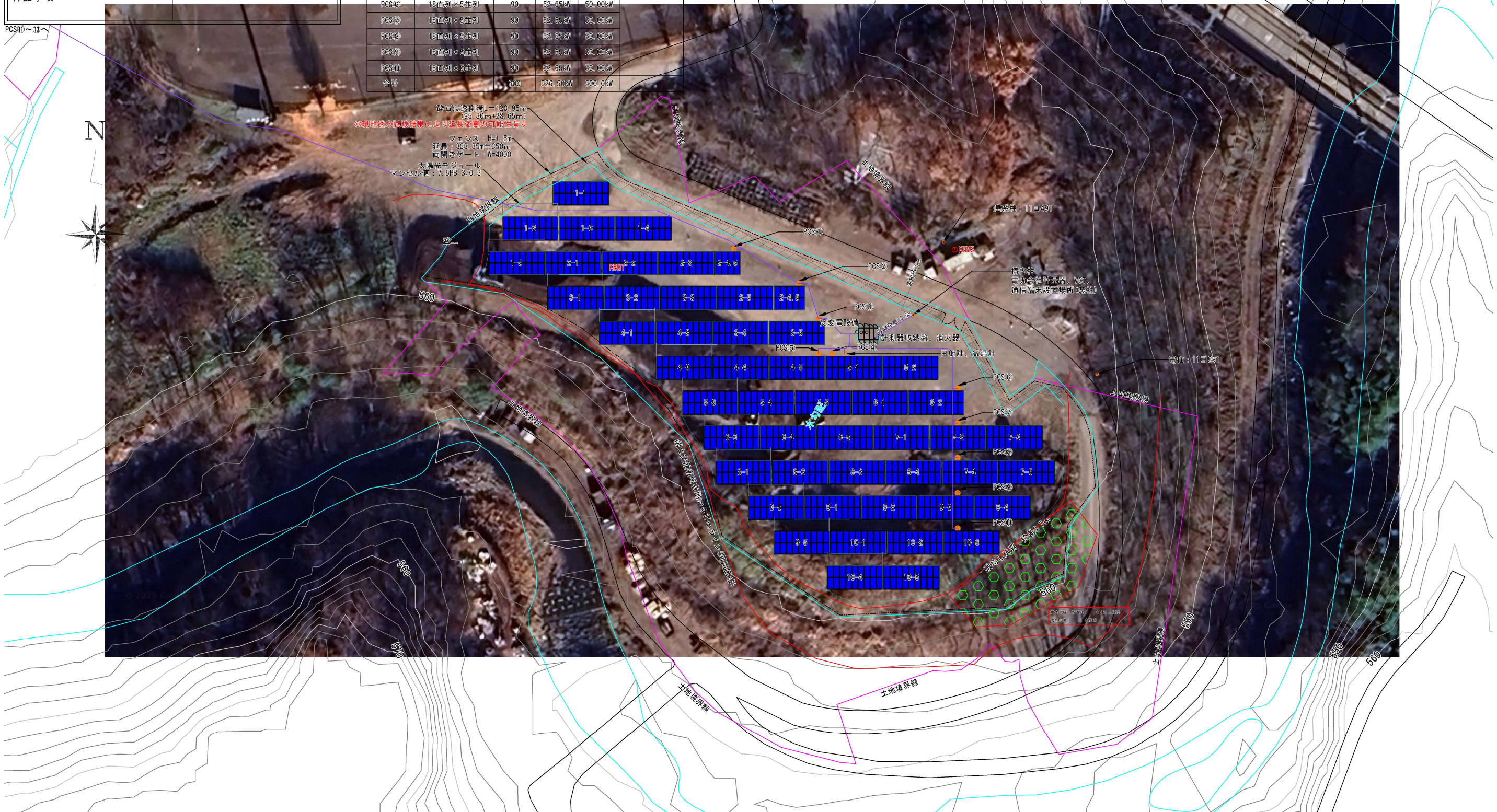
23-1

1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 1-5, 2-1, 2-2, 2-3, 3-1, 3-2, 4-1, 4-2, 4-3, 4-4

200m等高線

560

570



05		
04		
03		
02	地番993整地後再配置(パネル間2500→2200)	2025/6/9
01	太陽光パネル変更	2025/5/22



図面番号					改訂	プロジェクト名	プロジェクトNo.	
A3-920C014-AD					02	東御市下之城発電所	tom24-6	
設計	検図	調達	承認	作成日		図面名称	縮尺	ページ
金並	加藤	星川	河野	2024年11月29日		設備配置図	1:750	1/2

(参考様式) (第8条関係)

環境の保全のための措置の検討状況書

①検討の対象項目	②事業内容	③チェック	④環境保全措置の具体的な内容※1, 2, 3, 4
粉じん	(1) 事業区域に住居等が隣接するか	はい ☒ いいえ	【(1)、(2)が<u>どちらも</u>「はい」の場合に記載】 ※下之城 979 は私道を挟んで民家がありますが、事業区域の仕切りフェンスから平面距離で 16.5m程度離れているため、隣接していないと判断しています。
	(2) 切土・盛土を行う計画か	はい ☒ いいえ	
騒音・振動	(3) 建設機械が稼働する計画か	☒ はい いいえ	【(3)、(4)が<u>どちらも</u>「はい」の場合に記載】 ※下之城 979 は私道を挟んで民家がありますが、事業区域の仕切りフェンスから平面距離で 16.5m程度離れているため、隣接していないと判断しています。
	(4) 次のいずれかに該当するか ・近隣に住居等が存在する ・工事用車両の走行ルート沿いに住居等が存在する	はい ☒ いいえ	
水環境	(5) 事業区域内に次のいずれかの区域が含まれるか ・水道水源保全地区 ・水資源保全地域	はい ☒ いいえ	【(5)、(6)が<u>どちらも</u>「はい」の場合に記載】
	(6) 次のいずれかに該当するか ・薬液注入工法を採用する ・事業区域内で農薬を使用する	はい ☒ いいえ	
動植物	(7) 事業区域内に次のいずれかの区域が含まれるか ・国立公園、国定公園、県立自然公園 ・長野県自然環境保全地域 ・希少野生動植物の生息地等保護区	はい ☒ いいえ	【(7)～(8)の<u>いずれか又は両方</u>が「はい」の場合に記載】 ※事業区域内に地域森林計画対象民有林が存在するが、樹木が生えておらず、伐採もしないため、措置は講じません。

①検討の 対象項目	②事 業 内 容	③チェック	④環境保全措置の具体的な内容※1, 2, 3, 4
	(8) 事業区域内の次のいずれかの区域において、切土・盛土や樹木の伐採を行うか ・ 国有林、地域森林計画対象民有林 ・ 郷土環境保全地域 ・ 鳥獣保護区	はい ☒ いいえ	
触れ合い 活動の場	(9) 事業区域内に次のいずれかの区域が含まれるか ・ 国立公園、国定公園、県立自然公園 ・ 郷土環境保全地域	はい ☒ いいえ	【(9)、(10)が <u>どちらも</u> 「はい」の場合に記載】
	(10) 次のいずれかに該当するか ・ 事業区域に触れ合い活動の場が含まれる ・ 事業区域や工事用車両の走行ルートが触れ合い活動の場に隣接する	☒ はい いいえ	

※1 ③列にチェックした結果、環境保全措置の検討が必須である場合において、環境保全措置を検討した結果、環境保全措置を不要と判断したときは、その旨及び理由を④列に記載すること。

※2 環境影響評価法又は環境影響評価条例の対象事業については、環境保全措置の具体的な内容の記載に代わり、環境影響評価図書（事業基本計画書においては計画段階環境配慮書や環境影響評価方法書、許可申請書又は設置届出書においては環境影響評価書）の写しを添付することも可能。

※3 許可申請書又は設置届出書の作成にあたり、事業基本計画書から④列の内容を変更した場合は、変更後の内容及びその理由を④列に記載すること。（④列のうち、変更していない箇所には、従前のとおり記載すること。）

※4 ③列にチェックした結果、環境保全措置の検討は必須ではないが、事業者が必要と判断して検討した環境保全措置の内容を④列に記載することは可能。

(参考様式) (第 19 条関係)

維 持 管 理 計 画

作成日

令和 6 年 12 月 27 日

太陽光発電施設の設置場所	東御市下之城 979-10・979-12・985-1・985-9・986-2・990-2・990-4・990-5・990-13・993-1・993-2・993-5・993-6・993-7・993-8・993-13・994-1 の各一部、990-3 全体	
事業者名（法人にあつては、主たる事務所の所在地、名称、代表者の氏名、住所及び連絡先）	所在地 長野県東御市 281 番地 2 名 称 株式会社エコパワーとうみ 代表者 代表取締役 田丸 基廣 連絡先 TEL 0268-64-5896 FAX 0268-63-6908	
保守点検責任者	氏名及び住所	株式会社アドバンテック
	電話番号	東京都千代田区丸の内 1 丁目 8 番 3 号 丸の内トラスタワー本館 25 階
合計出力	650kW (①150kW ②500) kW	
維持管理の内容	別紙のとおり	
施設撤去予定日（事業終了予定日）	2045 年 6 月 30 日	
損害保険の加入状況	☒ 有 ☐ 無 (保険内容 自然災害 電氣的・機械的事故の対応)	
太陽光発電施設を撤去する際の対応	運転期間終了後は、設備の状況、貴市の本事業用地のその後の活用計画を協議し、事業を継続しない場合は設備の撤去・廃棄を行う。撤去する場合、適切に撤去及び廃棄を行い、原状復帰する。	
維持管理計画及び状況の公表方法	東御市公式ホームページもしくは標識にて公表予定	

※標識に掲示することにより公表する場合には、標識の記載項目と同一のところは記載を省略することができます。

<太陽光発電施設等の周辺において土砂災害等が発生するおそれがある場合に予定している措置の内容>

○強風による飛散

・太陽電池モジュール、課題の固定部に緩みがないこと、基礎などが強度不足になるような劣化がないことを保守点検項目に従い巡視を実施

○豪雨による水害

・土砂崩れ等の兆候がないか、排水機能に異常がないか、保守点検項目に従い巡視を実施

<土砂災害等により太陽光発電施設の損壊が生じ、又は周辺地域の環境の保全に支障が生じた場合に予定している措置の内容>

・事故・災害が発生した場合には、迅速に状況を把握し、関係機関（経済産業省、県など）に連絡をする。

・土砂の流出やパネルの飛散など周辺環境に影響を及ぼした場合は、速やかに撤去し、二次災害が起きないように対策を講じる。

<別紙>

太陽光を電気に変換する施設

対象	該当の有無	点検箇所	点検項目	点検方法	点検頻度	点検実施日
太陽電池アレイ	☒	太陽電池モジュール	表面及び裏面に著しい汚れ、きず、破損がない。	目視	年2回	
			端子箱に破損、変形がないか		年2回	
			フレームに著しい汚れ、きず、腐食、破損がない。		年2回	
	☒	コネクタ	破損、変形がなく確実に結合されている。		年2回	
	☒	ケーブル	配線に著しい汚れ、さび、腐食、きず、破損がない。		年2回	
			配線に過剰な張力、余分な緩みがない。		年2回	
	☒	電線管	破損、変形、汚損、腐食がなく正しく固定されている。		年2回	
	☒	接地線	接地線に著しい破損、断線がなく正しく接続されている。		年2回	
			接続部に緩み、破損がない。		年2回	
	☒	架台	基礎に著しいひずみ、損傷、ひびなどの破損が進行していない。		年2回	
			架台の変形、きず、汚損、さび、腐食、破損がない。		年2回	
			積雪による沈降、不等沈降、地際腐食等などの影響がない。		年2回	
			ボルト、ナットの緩みがない。		年2回	
			固定強度に不足の懸念がない。		年2回	
接続箱	☐	本体	著しい汚損、さび、腐食、破損、変形がない。			
			固定ボルトなどに緩みがなく確実に取り付けられている。			
			雨水、じんあい等の侵入がない。			
	☐	配線	配線に著しい汚損、破損、きず、さびがなく正しく固定されている。			
漏電遮断器	☒	本体	著しい汚れ、さび、腐食、破損、変形などがない。		年2回	
	☒	配線	配線に著しいきず、破損がない。		年2回	
パワーコンディショナー	☒	本体	著しい汚れ、さび、腐食、きず、破損、変形がない。		年2回	
			固定ボルトなどに緩みがなく確実に取り付けられている。		年2回	
			コーキングなどの防水処理に異常がなく雨水などの侵入がない。		年2回	

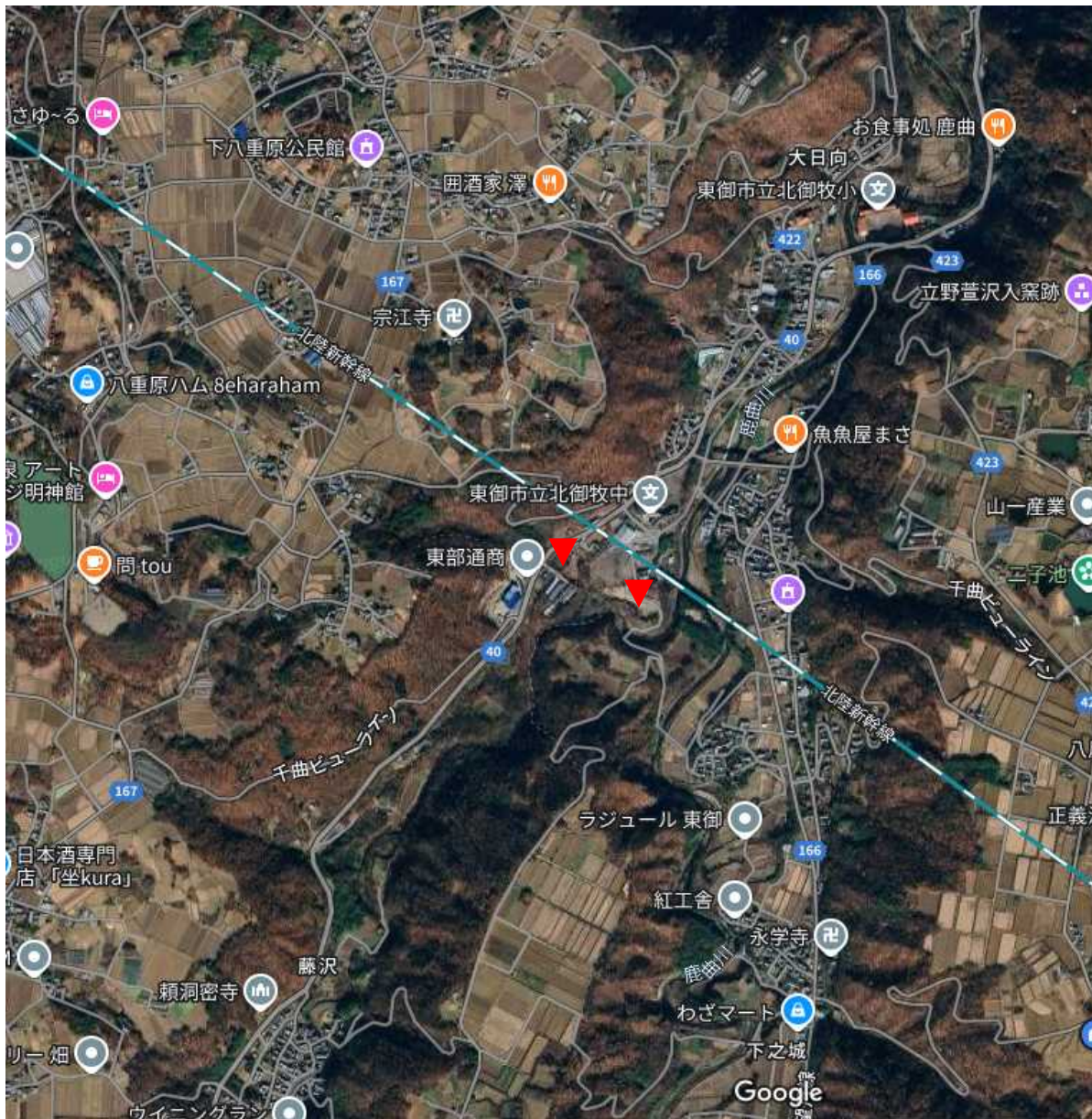
			運転時の異常な音、振動、臭い、加熱がない			
	☒	配線	配線に著しい汚れ、破損、汚れ、さび、腐食、破損などがない。		年2回	

附帯施設

対象	該当の有無	点検箇所	点検項目	点検方法	点検頻度	点検実施日
法面・擁壁	☐	切土法面	小段の沈下がない。	目視	年2回	
			排水溝の損傷がない。		年2回	
			目地にずれがない。		年2回	
			開口量の大きな亀裂が発生していない。		年2回	
			吹付工法等の剥離がない。		年2回	
			法枠工法等の破断がない。		年2回	
			はらみ出しの発生がない。		年2回	
			大量の湧水（濁り）がない。		年2回	
			崩落がない。		年2回	
			上部斜面からの土砂流出がない。		年2回	
	☐	盛土法面	小段の沈下がない。			
			段差が発生していない。			
			排水溝の損傷がない。			
			法尻の崩落がない。			
			オーバーフローによる洗掘がない。			
			大量の湧水（濁り）がない。			
			湧水箇所の軟弱化がない。			
		擁壁	亀裂、割れが生じていない。			
			座屈、段差、傾斜がない。			
			つなぎ目にずれがない。			
排水設備	☒	排水溝、枡	水路に落下物等のつまり、堆積がない。		年2回	
			亀裂、ずれがない。		年2回	
			破損がない。		年2回	
			排水設備外への漏水がない。		年2回	
調整池	☐	堤体	上下流の法面に崩れ、亀裂、損傷、陥没、漏水がない。			
			堤頂に亀裂、沈下、損傷、陥没、漏水がない。			
			草木の繁茂がない。			

	☐	基礎	堤体の基礎に漏水、地山のはらみ出し、沈下、崩壊がない。			
	☐	余水吐き	導流水路に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			越流部に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			放流水路に亀裂、損傷、劣化及び継ぎ目の開きがない。			
	☐	放流施設	規定の放流先以外への漏水、土砂の流出がない。			
			呑口部に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			吐き口に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			油等の浮遊がない。			
	☒	貯留部	法面に崩れ、亀裂、破損、湧水がない。		年2回	
			天端に損傷、沈下、陥没、損傷がない。		年2回	
			貯留部低地に著しい土砂の堆積がない。		年2回	
			油等の浮遊がない。		年2回	
			下流河川（周辺）に洗掘、崩壊がない。		年2回	
防護柵、塀	☒	フェンス（防護柵）	著しいさび、きず、破損、傾斜がない。		年2回	
	☒	標識（事業計画、注意喚起）	視認性を損なう汚れ、文字の色落ち、擦れ、破損がない。		年2回	
	☒	入口扉	開閉に異常がなく施錠に問題がない。		年2回	
進入路・管理道	☒	通路等	周辺からの土砂の流入、堆積がない。		年2回	
			事業地周辺への土砂の流出がない。		年2回	
			雨水等による洗掘がない。		年2回	
			草木の繁茂がない。		年2回	
設置地盤	☐	舗装あり地盤	亀裂、剥離がない。			
			段差、傾斜がない。			
			空洞の発生（土砂の流出）がない。			
			隆起の発生がない。			
設置地盤	☒	舗装なし地盤	周辺からの土砂の流入、堆積がない。		年2回	
			事業地周辺への土砂の流出がない。		年2回	
			雨水等による洗掘がない。		年2回	
			草木の繁茂がない。		年2回	

※施設の規模や立地、設備に応じた内容の点検項目を適宜追加してください。



計画地①: $36^{\circ} 19'25.3''N$ $138^{\circ} 20'19.4''E$

計画地②: $36^{\circ} 19'21.5''N$ $138^{\circ} 20'27.7''E$



 地域森林計画対象民有林

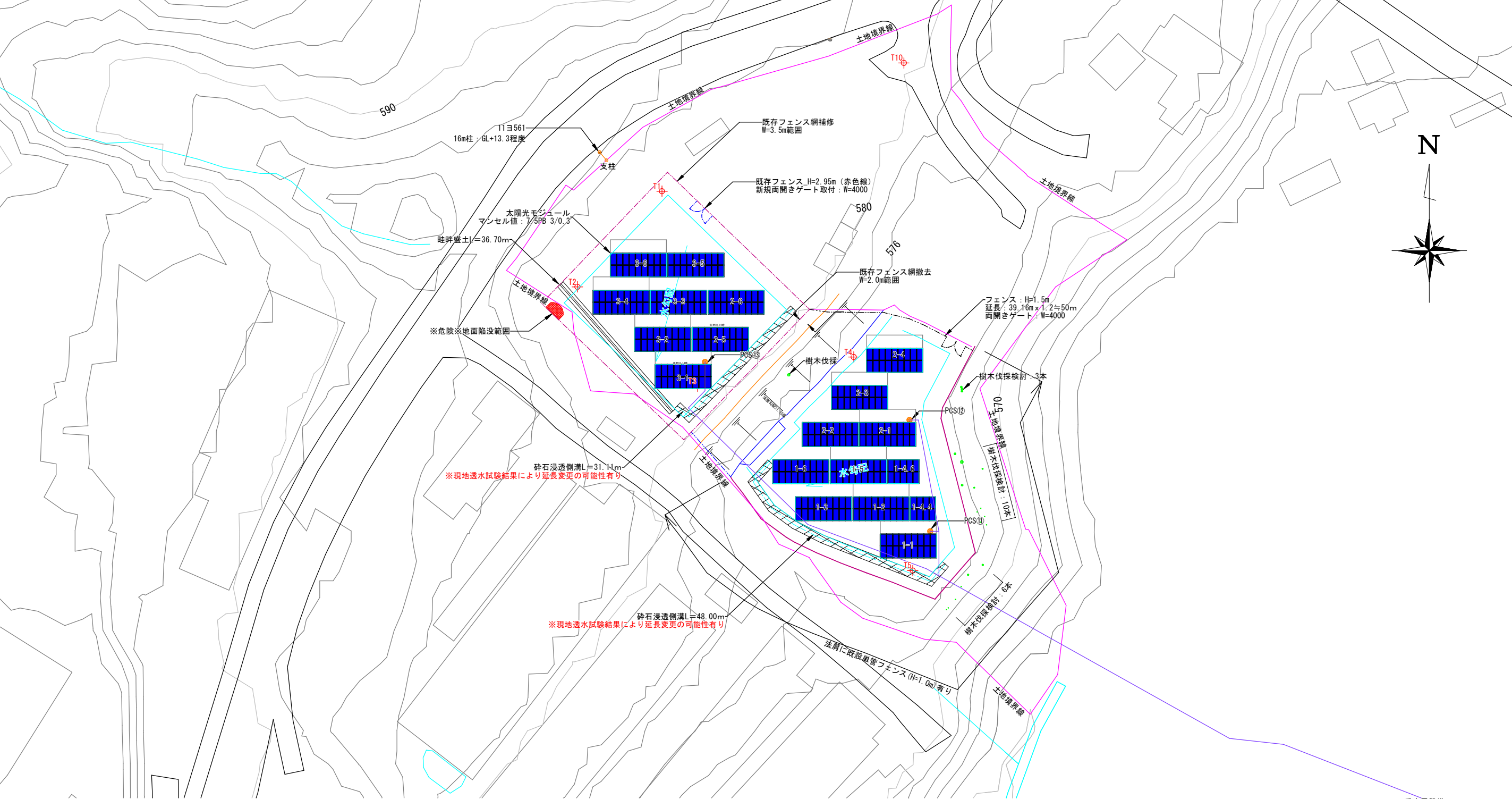
 撮影点・方向

※精度上の誤差がありますので、正確な位置情報を示すものではありません。

出典：国土地理院WEBサイト衛星写真

システム定格容量	150.00kW
太陽電池モジュール総容量	189.54kW(324枚)
モジュール定格出力	585W(LONGI : LR5-72HGD-585M)
レイ構成	
PV用	18直列×6並列×3
太陽電池架台種類	野立て架台(パネル角度15度)
特記事項	

PCS名	ストリング	枚数	モジュール 定格容量	PCS 定格容量	架台
PCS①	18直列×6並列	108	63.18kW	50.00kW	パネル架台 に取付け
PCS②	18直列×6並列	108	63.18kW	50.00kW	
PCS③	18直列×6並列	108	63.18kW	50.00kW	
合計		324	189.54kW	150.0kW	



改訂履歴	05		 株式会社アドバンテック	図面番号				改訂	プロジェクト名		プロジェクトNo.			
	04			A3-920C014-AD				02	東御市下之城発電所		tom24-6			
	03			設計	検図	調達	承認	作成日		図面名称		縮尺	ページ	
	02	地番993整地後再配置(パネル間2500→2200)		2025/6/9	金並	加藤	星川	河野	2024年11月29日		設備配置図		1:750	2/2
	01	太陽光パネル変更		2025/5/22										

